

◆日本共産党の見解を紹介します。

http://toride.jcpweb.net

メール jcp.toride@blue.ocn.ne.jp

◆ご意見、ご要望をお寄せください。

明るい取手

2013年12月8日(日)

発行:日本共産党取手市委員会

取手市井野3-19-6 TEL.72-7816

生活のお困りごとなどお気軽にご相談を

- 高木晶市委員長/TEL:74-2004
- 加増みつ子市議/TEL:74-8154
- 遠山ちえ子市議/TEL:83-8290
- 鈴木きよし市議/TEL:74-8160
- 関戸 勇市議/TEL:78-0500

取手市議会

『秘密保護法案』成立させることは到底認められない

— 「『秘密保護法案』の慎重審議を求める意見書」可決 —

11月29日市議会初日、日本共産党がよびかけで提案「……『秘密保護法』を今臨時国会で成立させることなど到底認められるものではありません。よって『秘密保護法案』の慎重審議を求めるものです」という「慎重審議を求める意見書」を賛成13（共産4、民主2、ネット1、無所属6）、反対10（公明4、みんな1、無所属5）で可決しました。

取手駅西口開発 ウェルネスタウン事業

取手の現状に合わない、 市が進める駅前開発事業

取手市が進める駅西口の「開発事業」の一つである「医療モール」に関し、「医療ビルが雑居ビル化!？」の東京新聞報道(下記)に、市民の間に波紋がひろがっています。…「駅前の箱ものはもういらない」、「ウェルネス・プラザは、やっぱり中止すべきだ」、「市民の願いより、利権・談合ではいいことない」…

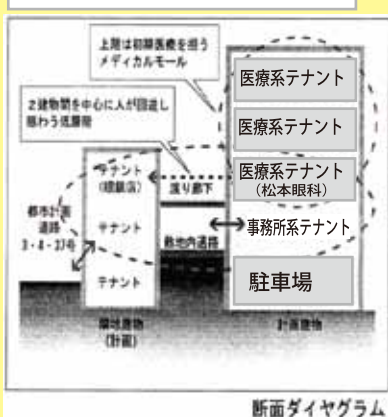
医療モールの事業者は、市が公募した取手市の医療機関。事業計画では、医療モールの一階に薬局などの事務所系テナント、二階に同医療機関の眼科、三、四階に最新医療機器を備えた「画像診断センター」や内科、整形外科、婦人科の医療系テナントを誘致することになっている。これまで判明しているテナントは、床面積約六百六十平方メートルの四階一區画約百十平方メートルで、ゼロ歳から二歳未満児十六人を定員とする保育園の分園開設の一件のみ。市が分園に対する補助金支出を補正予算案として九

取手市が公有地売却先とした「松本眼科」が提出した「取手駅北C街区提案事業・事業計画」から(本紙「明るい取手」が入手した資料から)



医療ビル全景

駅西口から医療ビルへつなぐ取手市施工の歩行者デッキ



取手市がJR取手駅北C街区で進める「ウェルネスタウン事業」で、来年三月オープン予定の「医療モール」(四階建て)に入るテナントの詳細をめぐり、市議から懸念の声が上がっている。オープン間近になっても市が市議会に説明しないため、理由をめぐり臆測が広がっている。

医療モールの事業者は、市が公募した取手市の医療機関。事業計画では、医療モールの一階に薬局などの事務所系テナント、二階に同医療機関の眼科、三、四階に最新医療機器を備えた「画像診断センター」や内科、整形外科、婦人科の医療系テナントを誘致することになっている。これまで判明しているテナントは、床面積約六百六十平方メートルの四階一區画約百十平方メートルで、ゼロ歳から二歳未満児十六人を定員とする保育園の分園開設の一件のみ。市が分園に対する補助金支出を補正予算案として九

(坂入基之)

記事本文



213年11月27日付 東京新聞

医療モールが雑居ビル化!?

住民訴訟

土地価格に大きな差

市側の1平方メートル当たり9万1000円
市とは別の鑑定士は、12万円

原告団が「鑑定士評価書」を提出

11月29日、「松本眼科」の医療ビル建設用地として、市有地を売却した際、その売却価格が不当に低価格だとして、市の藤井信吾市長らに損害額などの返還を求めた住民訴訟の第4回公判が水戸地裁でありました。

原告は、原告側依頼の鑑定士による評価書を証拠として提出。その中で、市の鑑定は「歩行者デッキを除くなど評価額を不当に低くし

ている」と指摘。市とは別の鑑定士の鑑定評価額は、市側の1平方メートル当たり9万1000円に対し12万円としています。さらに、駅西口デッキと医療ビルを結ぶ市施工の歩行者デッキ(全長118メートル、来春に完成予定)は「利便性が向上する有利な条件を市が売却にあたっての土地価格評価額の鑑定に反映されていない」と主張しています。

取手駅西口開発の住民訴訟をすすめる会は「住民訴訟・西口開発報告会」を計画し、市民のみなさんの参加を呼びかけています。

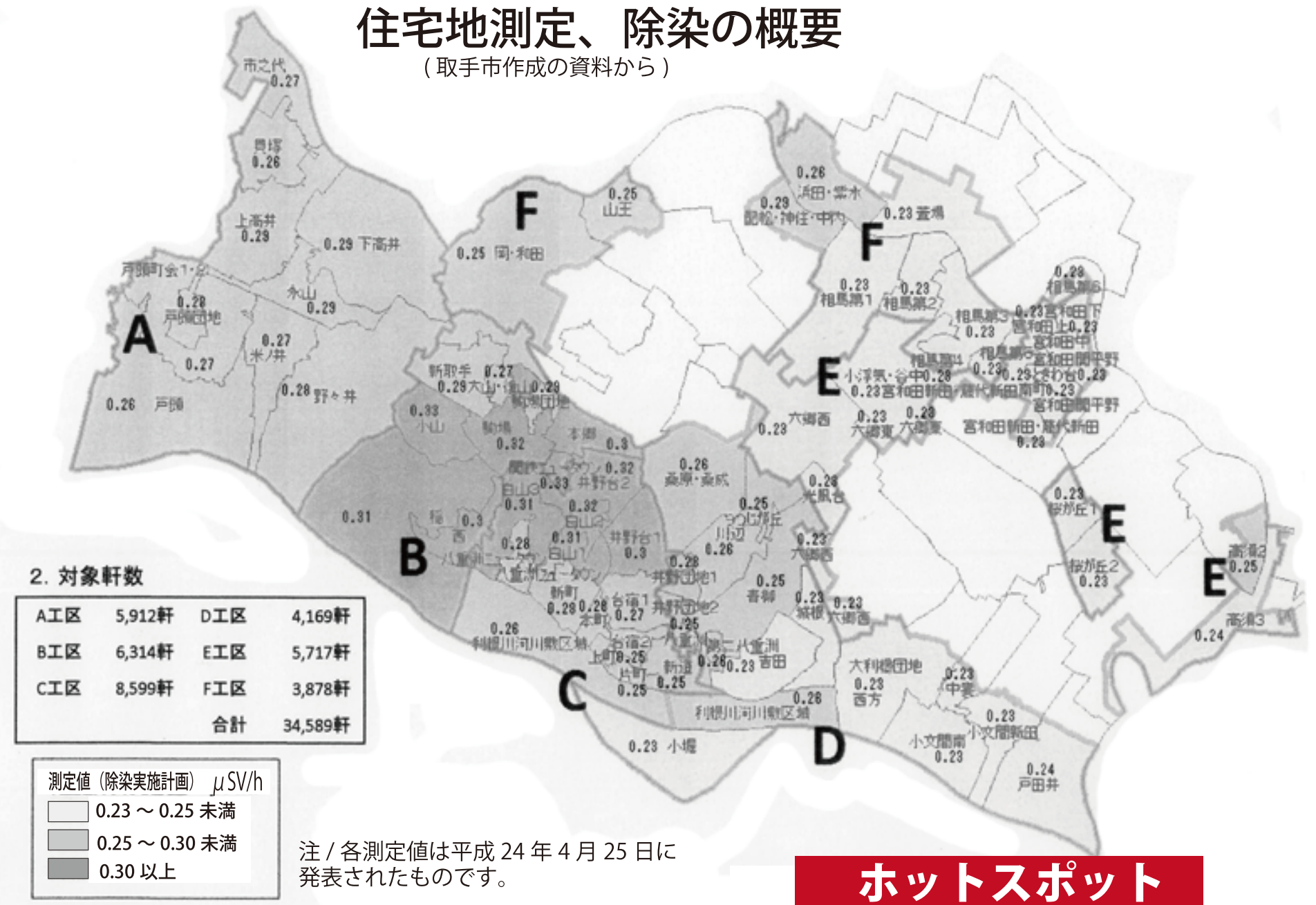
日時・会場は、12月15日(日)午前10時～ゆうあいプラザ(旧働く婦人の家)です。

ようやく、住宅地の放射能汚染測定、除染作業へ

11 月下旬、ようやく取手市内宅地の平成 25 年度の放射能除染事業の測定・除染作業の計画がしめされました。市内のこれから実施する測定軒数は 34,589 軒で、除染対象件数は測定軒数の 16%にあたる 5,542 軒と市は想定しています。

住宅地測定、除染の概要

(取手市作成の資料から)



「除染作業」を遅れに遅れにしておきながら、 市民の思いには遠い除染計画

測定は、地表面から 1cm、50cm、100cm なのに
「除染」の判定は 100cm。測定箇所も部分的。

取手市が、市民に配布した資料から

●測定作業

- (1) 測定箇所は、敷地内の人が比較的多くの時間を過ごすことが想定される場所及び比較的線量が高いと想定される場所を選択し測定。(右図)
- (2) 測定は、地表面から 1cm、50cm、100cm で行う。作業時間は 1 軒当たり 30 分程度を予定。
- (3) 測定の基準は、各家屋の敷地内の放射線量測定を行い、敷地内の放射線量が基準値 (地表面から 100cm) の毎時 0.23 マイクロシーベルト ($0.23 \mu\text{Sv/h}$) 以上か未満かを判定。

●除染作業

- (1) 敷地内測定の結果、平均空間線量が毎時 0.23 マイクロシーベルト ($0.23 \mu\text{Sv/h}$) の基準を上回った箇所があった場合は、除染作業を行います (対象になった宅地につきましては、個別に結果を報告し、作業日程等の詳細を調整させていただきます)。
- (2) 毎時 0.23 マイクロシーベルト ($0.23 \mu\text{Sv/h}$) の基準を下回った場合の除染作業は行いません。

ホットスポット

取手は県内一高い放射線量

国の指針だけでは、
市民の命・健康は守れない。
国にしっかりもの言い、
市独自の施策を。
子どもの健康調査の実施を。

